

TMPU Family

東北医科薬科大学報

2020.7

vol. 35



大学より

新型コロナウイルス感染症に対する 本学の対応

薬学部より

薬学実務実習について

医学部より

放射線基礎医学体験学習

トピックス

同窓会より

CONTENTS

学長挨拶	3
------	---

大学より	4
------	---

新型コロナウイルス感染症に対する本学の対応	4
-----------------------	---

新入生オリエンテーション	4
--------------	---

遠隔授業の実施	4
---------	---

「新型コロナウイルス感染症市民向け感染予防 ハンドブック」の紹介	5
-------------------------------------	---

令和元年度卒業証書授与式	5
--------------	---

生命薬科学科卒業研究優秀発表賞受賞者決定	6
----------------------	---

市民公開講座開催	6
----------	---

2020オープンキャンパス	6
---------------	---

特別奨学金について(薬学部対象)	6
------------------	---

令和元年度奨学金受給状況	7
--------------	---

震災特別措置(授業料等納付金減免状況)	7
---------------------	---

薬学部より	8
-------	---

薬学部長挨拶	8
--------	---

第105回薬剤師国家試験結果	8
----------------	---

白衣授与式	9
-------	---

薬学実務実習について	9
------------	---

薬学共用試験(CBT、OSCE)について	9
----------------------	---

生命薬科学科新カリキュラム	10
---------------	----

専門職連携教育(IPE)	10
--------------	----

進級基準について	11
----------	----

後期行事予定	11
--------	----

医学部より	12
-------	----

医学部長挨拶	12
--------	----

新型コロナウイルス感染症への対応について	12
----------------------	----

放射線基礎医学体験学習	14
-------------	----

全国医学部長病院長会議加入について	14
-------------------	----

進級基準について	15
----------	----

後期行事予定	15
--------	----

教養教育センターより	16
------------	----

教養教育センター長挨拶	16
-------------	----

科目紹介	16
------	----

図書館より	16
-------	----

二松会からの図書寄贈について(御礼)	16
--------------------	----

令和元年度図書館利用状況・蔵書統計報告	16
---------------------	----

自宅から図書館の電子資料を活用する(学習支援)	16
-------------------------	----

大学院より	17
-------	----

令和元年度大学院学位記授与関係	17
-----------------	----

入試センターより	18
----------	----

令和2年度入試結果	18
-----------	----

令和3年度入試概要	18
-----------	----

キャリア支援センターより	19
--------------	----

令和元年度就職(進学)状況	19
---------------	----

合同就職説明会に代わり、資料コーナーを設置	19
-----------------------	----

令和2年度薬学部キャリア・就職支援行事予定	20
-----------------------	----

法人より	21
------	----

高柳元明 理事長・学長 再任	21
----------------	----

本法人の中長期計画策定について	21
-----------------	----

令和2年度事業計画	21
-----------	----

令和元年度事業報告	22
-----------	----

令和元年度決算	22
---------	----

学校法人東北医科薬科大学 ガバナンス・コードの制定について	23
-------------------------------	----

令和元年度外部資金獲得状況	23
---------------	----

学内人事	24
------	----

附属病院より	25
--------	----

新型コロナウイルス感染症への附属病院の対応について	25
---------------------------	----

病院内リニューアルについて	25
---------------	----

トピックス	26
-------	----

永年勤続者表彰について	26
-------------	----

研究誌第66号発刊	26
-----------	----

教養教育関係論集第33号発刊	26
----------------	----

教室紹介	27
------	----

薬学部 医薬情報科学教室	27
--------------	----

医学部 放射線基礎医学教室	27
---------------	----

同窓会より	巻末
-------	----

叙勲	巻末
----	----

第6回ホームカミングデイ開催中止のお知らせ	巻末
-----------------------	----

二松会より	巻末
-------	----

令和2年度在学生保護者教育懇談会開催のご案内	巻末
------------------------	----

ご寄付のお願い(教育研究協力資金)	巻末
-------------------	----

新型コロナウイルス禍の脅威をともに乗り越えよう

理事長・学長 高柳元明



今、私たちはこれまでに経験したことのない新型コロナウイルス感染症のパンデミック(世界的大流行)という災禍にみまわれ、大変困難な状況に直面しています。この100年に1度ともいわれる、パンデミックを経験している人は、今はおりません。私もパンデミックという言葉だけは知っていましたが、その実態、その恐ろしさについては全く理解しておりませんでした。今年年明け1月4日に中国で原因不明の肺炎が流行しているとのニュース報道が流されたとき、ほとんどの医療人は2002年のSARSとその後のMERSの流行を思い起こして、どうせまた日本には入ってこず流行は消滅するだろうと安易に考えてしまったと思います。ところが2月より感染が世界的に急速に拡大していきました。同時に3月からは国内の感染者も増え、人が集まる公式な行事はできなくなり、本学でも3月10日に学生の代表者だけに私が卒業証書を授与するという変則的な卒業式を行い、その翌11日には、WHOがパンデミック宣言をするという状況でした。以後通常の行事は行われていません。新入生の皆さんを祝福すべく4月3日に予定されていた入学式も、残念ながら中止となりました。しかし、この困難な状況の中、新入生の皆さんが東北医科薬科大学の一員になられたことを、教職員一同、大変嬉しく思っています。

本来ですと、入学式とその後の各学年のオリエンテーションは、皆さんの医学、薬学を学ぶという決意を改めて確認し、仲間と共に今年度の学生生活について夢を膨らませる時期であります。しかし、緊急事態が発せられていた4月、5月の状況では、皆さんが安全に、安心して学べる環境をキャンパスで提供することができませんでしたので休校の措置をとらざるをえませんでした。そして、オンライン授業も利用しながらここまでやってきました。現在(6月1日)、全国的な緊急事態宣言が解除されましたが、当面の間は仲間達と一緒に学ぶことはできません。学生の皆さんには、これからの期間も自らを律し、そして、将来医療人を目指す者として、自分自身の体調管理に細心の注意を払い、感染拡大の危険を認識し、自分が感染しないために、そして、他者に感染させないために必要な事を、よく心に銘記して行動することが必要です。今後、コロナ禍がどのような展開を見せるかは全く予断を許さない状況

にあります。我々は歴史に残るパンデミックの渦中にいることは間違いありません。この経験を心に刻み何としてもこの困難を乗り越えていかねばなりません。

皆さんには、ぜひ今の時間を無為に過ごすことなく有意義な時間を過ごしていただきたい。我々教職員は、最大限皆さんを支援し、協力していきます。大学で仲間と共に受ける授業と、自宅で一人で受ける遠隔授業では、さまざまな違いがあり、悩みも多いと思います。今後、対面での実習や講義など、状況を見ながらできるだけ早く実施できるよう、検討を重ねています。また特に、大学という新しい環境に慣れることもできずにいる新入生の皆さんは、分からない事、不安な事がたくさんあるはずです。遠慮せずに何でも大学に相談してください。

さて、本学は1939年、東北薬学専門学校として創立され、昨年、創立80周年を迎えたところです。そして、2011年の東日本大震災を契機に、2016年4月、国内で37年ぶりとなる医学部新設を認められ、大学名を「東北医科薬科大学」と改め、医学部・薬学部を擁する医療系総合大学として、新たな歩みを始めております。この医学部開設が認められたのは、創立以来築いて参りました、本学の教育・研究体制と、地域医療への貢献が、評価されたからに他なりません。社会が本学に期待するところには大変大きなものがあり、本学はそれに応えていかねばなりません。

例年、入学式も終わりキャンパスが新緑で一段と美しくなるこの季節、構内には新入生や若い学生、教職員の皆さんの笑い声や歓声がこだまし、教職員も新年度へ向けて新たな意欲を高めるものです。今年はそのキャンパスに全く人影が見えず静まり返っています。この静寂な光景は、既視感のある光景と思いましたが、それは2011年の東日本大震災のあと卒業式が中止になり、入学式が5月に大きく延期になった時の光景でした。ウイルスのパンデミックというのは、地震災害、風水害などは全く異質でありながら、社会に与える影響には、その大きさの点で凄まじいものがあると実感しているところです。この感染症が終息し、学生、教職員皆さんの元気な姿がキャンパスにあふれる日を待ち遠しく思うとともに、皆さんが、心身共に健康な生活を送られるよう心から念願しております。

新型コロナウイルス感染症に対する本学の対応

新型コロナウイルス感染症が引き起こした未曾有の社会的混乱のなかで本学は、学生、教職員及び地域の皆様の安全確保を最優先しつつ、学生が学ぶ機会を確保することに努めてきました。

学生にとって節目となる重要な学事を中止または縮小するなど、本学としても苦渋の判断をせざるをえませんでした。3月10日の卒業式は規模を大幅に縮小して開催し、4月3日に予定していた入学宣誓式は中止しました。

4月7日、7都府県を対象とする政府の緊急事態宣言が発出された同日、本学に新型コロナウイルス感染症対策本部を正式に設置し、以来、対策本部会議を毎週開催して、大学と附属病院の情報を集約し、全学的な方針を迅速に策定してきました。

4月16日に緊急事態宣言が全国に拡大され、同21日に宮城県が県内大学に対する休業要請を発出したことを受けて、本学は同25日から5月10日まで休業しました。その後、緊急事態宣言の段階的な解除を踏まえ、本学では、「3つの密」を回避して安全を確保しながら、大学として本来の責務を果たすための体制づくりを進めています。

大学では、学生が学ぶ機会を確保するために遠隔授業(オンライン授業)を全面的に導入し、学生が自宅や実家から授業を安全

に受講できる環境を整えました。今後は感染予防策を徹底して講じつつ、実習科目など大学において対面で受講する授業を増やして、学ぶ機会の充実化を慎重に進めます。あわせて、オンライン面談等による学生の心のケアを進めるとともに、経済的に困窮している学生への支援策を実施します。

附属病院は、休業期間中も病院としての業務を継続し、地域の中核的医療機関としての責務を果たしています。今後も、新型コロナウイルス感染症への対応のみならず、地域医療を支える医療機関としての責務を果たします。



新型コロナウイルス感染症対策本部会議

新入生オリエンテーション

今年度は、学部入学生452名(薬学科321名、生命薬科学科31名、医学科100名)、大学院入学生10名(薬科学専攻博士課程前期課程5名、薬科学専攻博士課程後期課程4名、薬学専攻博士課程1名)の新入生を迎えました。

新入生オリエンテーションは4月2日(木)～7日(火)の日程で予定しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、日程・内容とも大幅に変更して行われました。

薬学部においては、4月2日(木)に組担任との顔合わせ、新型コロナウイルス感染症に対する本学の対応、自粛期間中の過ごし方や、授業開始までの学習への取り組み方などについて説明を行いました。また、4月16日(木)には、学長挨拶や遠隔授業の実施に

向けた情報ネットワークの接続に係る説明を行いました。

医学部においては、遠隔にて教務・学生生活に係るオリエンテーションが実施されました。

両学部とも当面の間は遠隔による授業が予定されておりますが、今後も、電話やメール、遠隔システム等を活用し、フォローしてまいります。



中継による学長挨拶の様子

遠隔授業の実施

4月6日(月)から医学部、5月13日(水)から薬学部の遠隔授業がスタートしました。新型コロナウイルス感染のリスクを回避するため、Zoomを使ったリアルタイム配信授業と録画によるオンデマンド配信授業を展開しています。受講する学生も日頃の対面による講義と違い、遠隔授業に慣れるまでは学習に集中するのが難しいかもしれませんが、全教職員が団結し、これまでも増して学習効果の上がる内容となるよう、工夫を凝らして準備を進めて

きました。全国的に緊急事態宣言は解除されましたが、まだまだ予断を許さない状況のもと、学生のために学びの歩みを止めるわけにはいきません。今後より一層、教職員が一丸となって学生の支援を行うべく全力で頑張ります。



リアルタイム配信中

「新型コロナウイルス感染症 市民向け感染予防ハンドブック」の紹介

新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、感染防止を前提とした「新しい生活様式」への取り組みが求められておりますが、東北医科薬科大学病院では2020年2月、市民の皆様が感染症予防について正しく理解した上で安心して生活していただくことを目標に、「新型コロナウイルス感染症 市民向け感染予防ハンド

ブック」を作成しました。ホームページへの公開後は、監修された賀来特任教授のご活躍もあって、多方面から反響を呼んでおります。

今後も内容については、最新の情報に沿って改訂することがありますが、ご家庭での新型コロナウイルス感染症を含む呼吸器感染予防にご活用いただければ幸いです。



監修：賀来 満夫
(東北医科薬科大学医学部特任教授・東北大学名誉教授)
作成：東北医科薬科大学病院感染制御部
東北大学大学院医学系研究科総合感染症学分野
仙台東部地区感染対策チーム
※本ハンドブックの詳細については、東北医科薬科大学病院
ホームページをご覧ください。
<http://www.hosp.tohoku-mpu.ac.jp>



感染症学教室
特任教授
賀来 満夫

皆様の感染予防に際して、本ハンドブックが少しでもお役に立てることを願っております。

令和元年度卒業証書授与式

令和元年度薬学部卒業証書・学位記授与式並びに大学院学位記授与式を令和2年3月10日(火)10時から東北医科薬科大学小島島キャンパスにて挙行いたしました。

今回の授与式は、新型コロナウイルスによる感染拡大防止の観点から規模と時間を縮小して実施され、講義棟の70周年記念講堂において高柳元明理事長・学長から学生代表に授与を行い、それを9ヶ所の講義室へ分かれて控えている卒業生に対し映像を配信する方法で行われました。

卒業生は、薬学科268名、生命薬科学科13名で、これまでに学部卒業生は2万3,507名となりました。また、大学院修了者は、薬科学専攻博士課程前期課程11名、薬科学専攻博士課程後期課程3名、薬学専攻博士課程4名、論文博士1名でした。

高柳元明理事長・学長は、学長告辞・理事長祝辞の中で『本学は、昨年5月に創立80周年を迎えました。本学同窓会は、今日から同窓生となる皆さんを含め2万3,507名となります。この同窓生の力は、日本の医療、薬学の世界において確固たる位置を占めております。皆さんは今後社会に出て、それぞれの人生を歩み始めることとなりますが、本学の多くの先輩が全国各地のさまざまな分野で活躍されていることを実感し、心強く思うに違いありません。どうか全国の先輩方と心を開いて交流し、多くの知己を得て飛躍されることを期待いたします。』と述べられました。

授与式終了後は、各配属教室の教員から卒業生一人ひとりに対し卒業証書・学位記、記念品等が授与されました。



理事長・学長から学生代表に学位記授与



映像配信による式の様子

生命薬科学科卒業研究 優秀発表賞受賞者決定

例年、2月に開催している薬学部生命薬科学科4年次による卒業研究発表会において、優秀な研究発表を行った学生に対し、優秀発表賞を授与しております。

令和2年2月10日に開催した卒業研究発表会においては、優秀な研究発表を行った下記2名に対し優秀発表賞を授与することが決定され、学長より賞状と記念品が贈られました。

【創薬科学コース】

氏名 八木橋 佳章(天然物化学教室)
論文題名 「微生物由来の抗真菌活性物質の探索研究」

【生命科学コース】

氏名 岩崎 佑大(微生物学教室)
論文題名 「C型肝炎ウイルス(HCV)Core蛋白質の病原性に寄与するアミノ酸変異と翻訳後修飾の解析」



左から 高柳理事長・学長、八木橋さん、東教授

市民公開講座開催

大学の持つ専門的な知識を開放し、地域の多くの皆様にわかりやすく学習して頂くことを目的として、昨年12月7日(土)に小松島キャンパスにおいて令和元年度市民公開講座を開催いたしました。

当日は、薬学部 薬物動態学教室の富田幹雄教授が講師となり「くすりの効き方に個人差が出るのはなぜ?」について、講演を行いました。

同じ薬を同じ量で服用しても、ひとそれぞれ効果が異なることがあります。それは体内での「薬の運命」が皆さん一人ひとり異なるから、との説明がありました。

同じ薬でも遺伝的要因・生活習慣や環境、飲み合わせや食べ合わせ、などに由来して薬の効果や副作用の発現に個人差が生じます。更には、薬の効果を最大限に引き出しながらも副作用を回避できる服用方法についてなど、広い説明がありました。

参加された大勢の皆様は大変熱心に聴講しておられました。



富田教授による講演

2020オープンキャンパス

今年は8月2日(日)に小松島キャンパスで薬学部オープンキャンパスを、福室キャンパスで医学部オープンキャンパスを予定しております。学部説明会や模擬講義、個別相談など行います。お申し込みや当日のプログラムについては本学ホームページをご確認ください。

また、7月3日(金)より本学ホームページにてWebオープンキャンパス(動画コンテンツを中心とした情報提供サイト)を実施します。外出を自粛している全国の皆さんに少しでも本学の雰囲気を感じて頂きたいと思います。ぜひご覧ください。



2019年オープンキャンパスの様子

特別奨学金について(薬学部対象)

平成24年度より、学業成績の向上及び学業を奨励することを目的に特別奨学金制度を設け、本学の入学試験において特に優秀な成績により入学した者及び在学生在で特に優秀な学業成績を修めた者に対し奨学金を給付しています。

特別奨学金の採用人数及び給付額は、下記のとおりです。

○新入生

薬学科…………… 推薦入試(公募制)6名、一般入試(前期)12名、
給付金額40万円

生命薬科学科… 一般入試(前期)2名、給付金額35万円

○在学生

薬学科…………… 各学年18名、給付月額2万円(年額24万円)

生命薬科学科… 各学年2名、給付月額2万円(年額24万円)

令和2年度においては、5月中旬に特別奨学金採用候補者117名を決定。5月27日(水)に採用候補者決定通知書を送付し、給付希望を確認したうえで採用者を決定しました。例年は6月下旬に特別奨学金採用証の交付式を行っておりましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から交付式は中止とし、採用証は採用者へ郵送いたしました。

令和元年度奨学金受給状況について（停止中も含む・留学生除く）

※対象外 令和2年2月21日現在

奨学金名	大学(薬学部)							大学(医学部)					大学院						合計	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	4年	計	M.C1年	M.C2年	D.C1年	D.C2年	D.C3年	D.C4年		計
日本学生支援機構 第一種	64人	73人	64人	62人	57人	62人	382人	14人	15人	20人	11人	60人	3人	4人	0人	0人	1人	0人	8人	450人
日本学生支援機構 第二種	93人	95人	117人	96人	92人	83人	576人	18人	19人	30人	23人	90人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	1人	667人
日本学生支援機構 給付奨学金	7人	8人	2人				17人	0人	0人	3人		3人								20人
東北医科薬科大学特別奨学金	20人	19人	20人	20人	18人	18人	115人													115人
高柳奨学金	11人	13人	16人	13人	5人	9人	67人						1人	0人	0人	0人	0人	1人	2人	69人
修学資金A方式								35人	36人	34人	35人	140人								140人
修学資金B方式								20人	20人	20人	19人	79人								79人
亀井記念財団奨学金	2人	4人	3人	1人	6人	6人	22人	0人	0人	1人		1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	23人
交通遺児育英会奨学金	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人
あしなが育英会奨学金	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	2人
茨城県奨学金	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人													1人
八戸市奨学金	1人	0人	0人	0人	1人	0人	2人													2人
富谷町奨学金	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人													1人
涌谷町奨学金基金	0人	1人	0人	0人	0人	1人	2人													2人
ひかり薬局奨学金		2人	2人	1人	2人	3人	10人													10人
河内奨学金	1人	1人	2人	1人	1人	1人	7人													7人
三菱商事復興支援財団学生支援奨学金						2人	2人													2人
社の邦育英会	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人								1人
鈴木万平記念薬学奨学金基金					1人		1人													1人
川野小児医学奨学金								0人	0人	1人	0人	1人								1人
朝鮮奨学会奨学金	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人													1人
合計	199人	216人	227人	196人	183人	188人	1209人	87人	90人	109人	89人	375人	4人	5人	0人	0人	1人	1人	11人	1595人
併用者	49人	56人	52人	46人	35人	47人	285人	19人	19人	31人	21人	90人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	375人
実質奨学生数	150人	160人	175人	150人	148人	141人	924人	68人	71人	78人	68人	285人	4人	5人	0人	0人	1人	1人	11人	1220人
在籍学生数	327人	356人	357人	313人	282人	297人	1932人	101人	103人	97人	97人	398人	7人	10人	4人	1人	5人	4人	31人	2361人
奨学生の割合	46%	45%	49%	48%	52%	47%	48%	67%	69%	80%	70%	72%	57%	50%	0%	0%	20%	25%	35%	52%

震災特別措置（授業料等納付金減免状況）

本学では、平成23年度から東日本大震災及び長野県北部地震を被災した学生への経済支援として授業料等納付金（新入生については入学金等の返還を含む）の減免を震災特別措置として実施しています。

震災特別措置の適用を受けた被災学生数は下記のとおりです。

令和2年度被災学生

被害状況	薬学科	生命薬科学科	大学院	合計	
主たる家計維持者が所有し、居住する自宅家屋が被災	全壊	14人	1人	0人	15人
	大規模半壊	7人	1人	0人	8人
主たる家計維持者が死亡もしくは行方不明		2人	0人	0人	2人
主たる家計維持者が居住する自宅家屋が原発事故により被災	避難区域	0人	0人	0人	0人
	避難区域外からの自主避難	2人	0人	0人	2人
合計		25人	2人	0人	27人

被災学生の推移（過去3年分）

被害状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
主たる家計維持者が所有し、居住する自宅家屋が被災	全壊	16人	16人	17人
	大規模半壊	10人	8人	11人
主たる家計維持者が死亡もしくは行方不明		1人	0人	2人
主たる家計維持者が居住する自宅家屋が原発事故により被災	避難区域	2人	1人	1人
	避難区域外からの自主避難	1人	1人	3人
合計		30人	26人	34人

また、今年度は、平成30年北海道胆振東部地震で被災した学生への経済支援も同様に実施しましたが、申請はありませんでした。

薬学部長挨拶



薬学部長
柴田 信之

昨年度末に始まったパンデミックは社会構造を変える勢いで広がっています。この新型コロナウイルス感染症は未知の部分が多いといわれていますが、ウイルスはさらに変異して性質を変えて

いくと考えられています。世界が協力し英知を結集して有効で安全な医薬品の開発や既存医薬品の作用機構を応用した治療法などが速く実用化されることを願っています。遠隔による講義は教員も慣れていないため、淡々と進んでしまう場合もあるかと思いますが、メリットもたくさんあります。チャット機能などで気軽に質問できること、録画した動画で復習できること、授業直後にMoodleに用意されている練習問題で理解度を確認できることなどです。薬学部生は5月13日から遠隔授業が始まって急に勉強で忙しい毎日になったのではないのでしょうか。学習効果の上がるように教職員が工夫して講義を組み立てていますので、学生の皆さんは是非それを有効に活用して下さい。遠隔授業ポータルサイトのMoodleにログインしてみると朝早くから夜遅くまで多くの学生がアクセスして学習しているのが分かり感心させられます。環境が整ってキャンパスで学習できるようになるまで、健康に気をつけて生活のリズムを乱さないように心がけて学習を進めて下さい。

第105回薬剤師国家試験結果

第105回薬剤師国家試験が2月22日(土)、23日(日)の両日全国9地区を会場として実施され、3月24日(火)に厚生労働省より

結果が発表されました。本学の新卒は268名が受験し229名が合格。合格率は全国平均より約0.7ポイント高い85.45%でした。

第105回薬剤師国家試験結果

	新卒			6年制既卒			その他(旧4年制卒)			総計		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
本学	268人	229人	85.45%	89人	38人	42.70%	1人	0人	0.00%	358人	267人	74.58%
私立大学	8,496人	7,141人	84.05%	4,737人	2,019人	42.62%	172人	28人	16.28%	13,405人	9,188人	68.54%
全大学(国公立)	9,194人	7,795人	84.78%	4,804人	2,050人	42.67%	313人	113人	36.10%	14,311人	9,958人	69.58%

今年度も国家試験対策として次のような補講や演習を行っていく予定です。

① 5月18日～7月14日(58日間)

基礎学力演習(オンライン)

④ 2月10日、12日、14日～17日(6日間)

基礎学力演習(オンライン)

② 7月29日～8月4日(7日間)

夏期講習会(オンライン)※希望者

⑤ 8月20～21日、10月7～8日、11月24～25日、2月4～5日

模擬試験(第2回～第5回)

第1回模擬試験は中止となりましたが、問題および解答解説書を郵送いたしましたので、自己学習にお役立てください。また、模擬試験結果については、受験生本人だけでなく保証人様宛にもお送りいたします。国家試験受験に際しての参考にしていただければと思います。

③ 10月19日～11月20日(25日間)

国試対策特別補講I

白衣授与式

2月19日(水)、薬学部薬学科新5年生を対象に白衣授与式を開催しました。

薬学部薬学科では、5年生に病院や薬局の現場において実務実習を行います。この実務実習に先立ち、新5年生を対象に白衣が授与されました。薬学部での白衣授与式は今回が2回目となりますが、昨年10月に行った医学部1期生の白衣授与式を含めると、東北医科薬科大学としては今回が3回目の白衣授与式となります。

式典では、高柳理事長・学長が「実習を受け入れて下さった医療スタッフや患者さんへの感謝の気持ちを忘れず、できるだけ多くのことを学び、感じて帰ってきて欲しい。皆さんの実習が実り多きものであるよう祈っています」と激励の言葉を述べられました。

続いて実習生代表12名に白衣が手渡され、全員が本学のロゴ・大学名が入った白衣に袖を通しました。その後、実習生代表2名から決意表明が述べられ、閉会となりました。



実習生代表2名による決意表明

薬学実務実習について

令和元年度より、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した病院・薬局実務実習が実施されています。成果基盤型教育(OBE: Outcome Based Education)が取り入れられており、学生が何ができるようになったかが重要になります。代表的な8疾患が挙げられており、高血圧症や免疫・アレルギー疾患患者は薬局が多く、がんや脳血管疾患患者は病院が多いため、お互い

に補い合う形でより多くの疾患に関わることが可能となりました。今年度につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大もあり、中断や一部に遠隔実習というこれまでにない形態となっておりますが、学生は感染予防の実態に触れるなど、より実践的な経験をしながら実務実習に取り組んでいます。

薬学共用試験(CBT、OSCE)について

薬学共用試験は、薬剤師免許をもたない学生が薬局・病院での体験型実務実習に臨むために必要な一定の技量をもっていることを示す試験です。主に薬学の「知識」を問うCBT(Computer-Based Testing)と、主に調剤などの「技能」や患者対応の「態度」を評価する実地試験OSCE(Objective Structured Clinical

Examination)からなります。

令和元年度本学では、OSCE本試験は12月14・15日、再試験は令和2年2月26日に、そしてCBT本試験は令和2年1月7・8日、再試験は2月28日に、薬学科4年生を対象に行われ、最終的に両試験とも297名が合格しました。

生命薬科学科新カリキュラム

生命薬科学科では、近年多様化する社会的人材ニーズに対応すべく、令和2年度入学生より新カリキュラムを導入しました。新カリキュラムでは、専門科目単位の約1/3を選択必修科目から取得することとし、学生が主体的に自分の将来設計に適合した科目を選んで単位を取得できるようになりました。選択必修科目としては、化学系には医薬品分子設計学、コンピューター化学など、生物系には分子標的薬概論、ゲノム情報概論など、それぞれ多くの最先端科目を配しています。今後も、基礎薬学と生命科学を融合した幅広い知識を身につけ、様々な分野で活躍出来る多様な人材の育成を目指していきます。



専門職連携教育(IPE)

例年、薬学部生と宮城大学の看護学部生が病院実習中の病棟で患者さんの症例に基づくクリニカルIPE、さらに小松島キャンパスでも模擬症例検討会に取り組んでいます。さらに東北文化学園大学が主催して毎年開催されているIPEに参加しています。今年は令和2年2月17日から2月27日にかけて東北文化学園大学の看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士を目指す学生、仙台白百合大学の管理栄養士を目指す学生、本学薬学部4年生と5年生の希望者が参加して開催されました。専門職種はそれぞれ問題を捉える視点が異なります。従って提案される解決法も異なりますが、それが医療・福祉の現場では患者さんの最良の支援につながるという多職種連携の重要性を体感する貴重な機会となっています。



多職種連携教育での発表会の様子

進級基準について(薬学部履修規程抜粋)

薬学部の進級基準は次のとおりです。なお、各学年の進級基準は入学年度によって異なりますので、ご注意ください。

「令和2年度入学生」

1. 薬学科1年次、生命薬科学科1年次

○1年次では次の条件をすべて満たすこと。

- ア. 1年次における実習の科目を除く必修科目の未修得単位が4単位以内であること。
- イ. 1年次における実習の科目をすべて修得すること。

●GPA進級基準値

必修科目の進級条件(必修科目の未修得単位が4単位以内)を満たしていない場合でも、**未修得単位が6単位以内であり、かつGPAの数値が基準値を上回っていれば進級**とします。

基準値は、当該学年履修科目全体の年間**GPA1.500以上**とし

ます。

GPA制度について(学生便覧より一部抜粋)

本学の薬学部では、令和2年度入学生よりGPA(Grade Point Average)制度の導入を行いました。

GPA制度とは、各授業科目の成績を5段階のグレード[S(秀)、A(優)、B(良)、C(可)、F(不可)]で評価し、各成績評価段階(評点)に4~0のGPを付与して、1単位あたりの評定平均値(GPA)を算出する制度です。

GPAは修得単位数という「量」だけでなく、成績評価に基づく「質」を表しています。

GPAの導入により、学期毎の学修成果と学修の状況がより明確になり、学修意欲の向上、無理な履修計画や安易な履修登録の自己規制につながることを目的としています。

●成績評価(区分、グレード、評点、GP)

区分	グレード	評点	GP
合格	S(秀)	100点～91点	4
	A(優)	90点～81点	3
	B(良)	80点～71点	2
	C(可)	70点～60点	1
不合格	F(不可)	59点～ 0点	0
	欠席	—	
	資格無	—	

〔平成27年度～令和元年度の入学生〕

1. 薬学科1～5年次、生命薬科学科1～3年次

○当年次における実習の科目を除く必修科目の未修得単位が4単位以内であること。

ただし、薬学科2～5年次、生命薬科学科2～3年次においては、前年次(薬学科4年次においては、3年次配当科目のみ)における欠単位は、当年次欠単位に含め4単位以内であること。

○当年次における実習の科目をすべて修得すること。

2. 薬学科4年次、生命薬科学科3年次

○上記1の条件の他、2年次までの全ての必修科目及び総合科目中の卒業要件である選択必修科目を修得すること。

また、薬学科4年次においては、薬学共用試験に合格すること。

〔平成21年度～26年度の入学生〕

1. 薬学科1～5年次、生命薬科学科1～3年次

○進級には各学年において、その年次における実習の科目を除く必修科目の欠単位が4単位以内でなくてはならない。ただし、前年次における欠単位は当年次欠単位に含め4単位以内でなくてはならない。

○実習の不合格者は原則として進級することができない。

2. 薬学科4年次、生命薬科学科3年次

○薬学科4年次においては、上記1の条件の他、4年次までの必修科目をすべて修得しなければならない。

○生命薬科学科3年次においては、上記1の条件の他、最終試験終了時において2年次までの単位をすべて修得していない場合は4年次に進級することができない。

薬学部 後期行事予定

8月

8月24日～11月8日 薬学科5年生実務実習(第Ⅲ期)

9月

9月7日、8日、9日 薬学科4年生CBT体験受験
9月8日～10日 後期当初オリエンテーション
9月11日 後期授業開始

10月

10月3日 二松会総会、保護者教育懇談会(仙台)
10月7日、8日 薬学科6年生薬剤師国家試験対策第3回模擬試験
10月9日、17日 薬学科6年生薬剤師国家試験対策模擬試験弱点補講
10月10日、11日 大学祭
10月19日～11月20日 薬学科6年生国試対策特別補講I
10月24日 在学生保護者教育懇談会(青森、秋田)

11月

11月7日・11月28日 薬学科1・2年生、生命薬科学科1・2年生中間試験
11月12日 薬学科4年生薬学実力試験(CBT対策)
11月24日～2月14日 薬学科5年生実務実習(第Ⅳ期)
11月24日、25日 薬学科6年生薬剤師国家試験対策第4回模擬試験
11月26日、27日 薬学科6年生薬剤師国家試験対策模擬試験弱点補講
11月30日 第二期授業料等納付金納入期限

12月

12月12日、13日 薬学科4年生薬学共用試験(OSCE)
12月24日 後期授業終了
12月25日 冬季休業(1月5日まで)

1月

1月7日、8日 薬学科4年生薬学共用試験(CBT)
1月8日～21日 後期試験(薬学科4年生:1月13日～20日)
1月29日 薬学科4年生後期成績Web公開、後期フォローアップオリエンテーション(薬学科4年次のみ)

2月

2月4日 後期成績Web公開(薬学科4年生以外)
2月4日、5日 薬学科6年生薬剤師国家試験対策第5回模擬試験(卒業決定者)
2月12日～2月19日 後期追・再試験(薬学科4年生:2月5日～15日)
2月16日、2月18日 2021年度実務実習事前講習
2月17日 薬学科4年生薬学共用試験(OSCE追・再試験)
2月下旬 第106回薬剤師国家試験
2月26日 薬学科4年生薬学共用試験(CBT追・再試験)

3月

3月10日 令和2年度学部卒業証書・学位記授与式並びに大学院学位記授与式
3月15日 進級判定

※新型コロナウイルス感染症の影響で変更になる場合があります

医学部長挨拶



医学部長
福田 寛

医学部は開設5年目を迎えており、最初の卒業生を出すまで、もう一息です。これまで教育環境整備を着々と進めるとともに、学年進行に合わせて授業を着実に実施してきました。ところが、

本年度は全国的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、入学式中止、学生の登校禁止、対面授業の中止とオンライン授業の開始、臨床実習の中断など、大幅な授業方法の変更を余儀なくされました。現在、オンライン授業は順調に進行していますが、この方式では実習科目の実施が困難であること、講義における双方向性の確保が十分でないなどの問題があります。システムはまだ十分とは言えませんが、これまで本学では不十分だったオンライン講義やTV会議など、IT環境が期せずして整備されました。

5月25日に緊急事態宣言が全国的に解除されたことを受けて、全国各地に帰省していた学生を6月初めから仙台に呼び戻し、対面実習や授業の再開に向けた準備を始めました。感染防止策や健康管理を徹底的に実行しながら、まずは実習科目から再開し、授業を軌道に乗せたいと思います。学生にとっては心身ともに辛い日々を過ごしていると思いますが、この非常事態を、学生とともに教職員一丸となって乗り切りたいと思います。

医学部の新型コロナウイルス感染症への対応について

医学部においては2月下旬から、コロナウイルスへの対応に関して関係者が集まり、学生・教職員に関する対応、例えば学内で感染者が出たときの対応・ルール策定や教育・研究体制のあり方等について、検討・協議を重ねてまいりました。

3月に入り、医学部コロナ感染対策本部を正式に立ち上げ、毎

週月曜日に定例開催し、状況に応じた対応策を検討、実行に移してきたところです。

国・都道府県、また本学の基本方針に基づき、医学部として大きな決定を下した事項(教授会決定事項)は以下の3つとなります。

① オンライン授業の実施

新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点、いわゆる「3密」を避けるため、前期の講義は全てオンライン授業(Zoomを利用)で実施することを決定しました。

学生は自宅等で授業を受けることとなりますが、学生の心のケアについて十分に配慮しながら進めています。特に新入生はまだ一度もそれぞれ顔を合わせたことがないことから、学生委員会委員長・組担任を中心に交流会や電話面談を行うなど、積極的にメンタルフォローを推進しているところです。

② 臨床実習の一時中断

昨年秋から行っている臨床実習ですが、病院における院内感染防止のために、4月14日(火)から臨床実習(医学部5年次)を一時中断いたしました。5月11日(月)よりオンラインでの実習を実施し、緊急事態宣言の全面解除に伴い、安全面を考慮しながら、6月23日(火)から対面での臨床実習を再開しています。

③ 時間割表変更

医学・薬学両学部の授業開始を4月20日に後ろ倒ししたことに伴い、原則、時間割を2週間後ろ倒しすることといたしました。なお、対面授業が行われないことから、実習科目、特に解剖学(2年次)の取り扱いについては、慎重に検討・協議し、講義形式の授業から開始し、解剖学実習については、開始時期を後期の遅い時期に設定、大幅に組み替えることとなりました。

また、教職員に関して、感染予防の観点から、以下のようなことを実施しております。

1. 教員の兼業の自粛→特定警戒都道府県への兼業の自粛要請
2. 教職員の検温報告の実施→オンラインで報告(学生にも実施)
3. 外部者(業者等)の医学部教育研究棟への立入禁止
4. 食堂のゾーニング→病院への立入頻度の高いグループとそれ以外のグループで区分

医学部における新型コロナウイルス感染防止に向けた授業関係の対応と各種行事の状況について

授業関係の対応について

1. オンライン授業開始について

以下のとおり各学年の授業をオンラインにて実施しています。

学年	オンライン授業開始日
1年生	4月22日(水)～
2年生	4月20日(月)～
3年生	4月13日(月)～
4年生	4月6日(月)～

※6月22日(月)から定期試験を対面で実施しています。

2. 医学部5年次診療科臨床実習について

4月14日(火)から臨床実習は一時中断し、5月11日(月)よりオンラインでの実習を実施しておりましたが、6月23日(火)から対面での臨床実習を再開しています。

3. 医学系共用試験(CBT・Pre-CC OSCE)について

当初スケジュールのとおりに8月に実施を予定しておりますが、今後の状況で変更となる可能性があります。



各種行事の状況について

1. 修学資金採用証交付式

東北の地域医療に貢献しようとする高い志を持った学生を、経済的に支援するため、本学医学部設置時に創設した修学資金制度について、その貸与学生を対象に毎年4月に修学資金採用証交付式を行ってありますが、今年度の交付式は中止となりました。

2. 東北大学白菊会総会

平成27年から本学が加入している、解剖学の教育・研究のためご献体を志されている方々によって構成される「東北大学白菊会」の総会は例年5月下旬に行われておりますが、今年度の総会は中止となりました。

放射線基礎医学体験学習

医学部1年次「放射線基礎医学体験学習(担当責任者:栗政教授)」の目的は、原子力災害時に医師として適切に行動・対応できる知識を身につけることです。女川原子力発電所と福島県浜通りなどを訪問し、放射線のリスク管理や原子力災害の現状を学びます。

1月20日(月)、福島県双葉郡大熊町の役場本庁舎を訪問。本庁舎は、令和元年5月7日に完成して業務が再開されたばかりで、まちづくり公社の担当者から震災当時の町の被災状況と復興に関する説明を受け、学生たちはその過酷な状況に聞き入っていました。同日、福島県双葉郡富岡町にある東京電力の廃炉資料館を訪問。原子炉災害の発生時の状況、除染技術や汚染水処理の取り組み、原子力事故の現実と廃炉作業の進捗状況などの説明に

熱心に耳を傾けていました。

1月21日(火)、福島県相馬郡飯舘村・特別養護老人ホーム「いいたてホーム」を訪問。東日本大震災発生時に周辺の放射線量が高まる中で、村やホームが当時どのように避難を行ったか、またその時の緊迫したかつ過酷な状況について、実際の経験談を職員の方々から伺いました。

1月23日(木)、みなみそうま復興大学・ボランティアガイドによる被災地ツアーに参加。南相馬市小高区の海岸周辺を見学し、南相馬市の避難対応の説明を受けました。

被災された地域で実際の状況・経験談を伺うことのできる貴重な体験学習であり、改めてご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。



全国医学部長病院長会議加入について

令和2年5月29日(金)に開催され、全国医学部長病院長会議定期社員総会において、本学の加入が正式に承認されました。

平成28年の医学部設置以来、本学は当会議への加入を申し入っており、昨年の定期社員総会ではオブザーバーとしての参加が認められ、今回、晴れて正式加入となりました。

全国医学部長病院長会議は、全国における国公私立大学医科大学長、医学部長又は附属病院長を会員とし、その定款にあるよ

うに、医育機関共通の教育、研究、診療の諸問題及びこれに関連する重要事項について協議し、相互の理解を深めるとともに意見の統一をはかり、わが国における医学並びに医療の改善向上に資することを目的としております。

この加入により、全国の医学部・病院との情報交換・相互交流により、本学医学部のさらなる充実・発展が期待されます。

進級基準について

医学部の進級は、下記の医学部履修規程第12条に基づきます。各学年において進級条件を満たさない場合は、原級となります。

なお、定期試験及び追再試験不合格の場合は、進級判定試験(3月上旬～中旬)を行うことがあります。判定試験対象者には、組担任から学生本人に知らせるとともに、文書により保証人に通知します。

(医学部履修規程より抜粋)

第12条 医学部における進級の条件は、次のとおりとする。

(1) 1年次から2年次への進級

- ア 履修する必修の全ての授業科目の単位を修得すること。
- イ 履修する選択必修の授業科目のうち、基礎教養の外国語の科目について、同一語学の科目を2単位以上修得すること。
- ウ 履修する選択必修の授業科目のうち、基礎教養の外国語以外の科目について、4単位以上修得すること。

(2) 2年次から3年次への進級

- ア 履修する全ての授業科目の単位を修得すること。

(3) 3年次から4年次への進級

- ア 履修する全ての授業科目の単位を修得すること。
- (4) 4年次から5年次への進級
- ア 履修する必修の授業科目のうち、臨床実習以外の全ての科目の単位を修得すること。
 - イ 履修する選択必修の授業科目のうち、1単位以上修得すること。
 - ウ 履修する臨床実習について、4年次の1月末までの学修成果の評価が、臨床実習成績判定委員会において合格の判定を受けていること。

(5) 5年次から6年次への進級

- ア 履修する臨床実習について、5年次の1月末までの学修成果の評価が、臨床実習成績判定委員会において合格の判定を受けていること。
- 2 前項各号に定められた全ての条件を満たさない場合は、原級に留める。
 - 3 原級に留まった者の既修得単位は、認める。
 - 4 進級は、教授会の意見を聴いて、学長が認定する。

医学部 後期行事予定

8月

8月22日(土)	4年次 共用試験(CBT)
8月29日(土)	4年次 共用試験(OSCE)
8月31日(月)	1年次・2年次 後期授業開始
8月31日(月)～9月4日(金)	1年次 後期選択必修科目履修登録期間

9月

9月5日(土)	4年次 共用試験(追再試OSCE)
9月12日(土)	4年次 共用試験(追再試CBT)
9月28日(月)	3年次・4年次 後期授業開始

10月

10月3日(土)	二松会総会在学生保護者教育懇談会(仙台会場)
10月10日(土)・11日(日)	大学祭
10月17日(土)	在学生保護者教育懇談会(東京会場)

11月

11月26日(木)	東北大学・東北医科薬科大 合同慰霊祭・遺骨返還式
11月30日(月)	第2期授業料等納付金納入期限

12月

12月26日(土)～1月3日(日)	4年次・5年次 冬季休業
12月26日(土)～1月5日(火)	1年次・2年次 冬季休業

1月

1月6日(水)～13日(水)	1年次 後期定期試験期間
1月13日(水)～21日(木)	3年次 後期追再試験期間

2月

2月8日(月)～16日(火)	1年次 後期追再試験期間
----------------	--------------

3月

3月1日(月)～10日(水)	1年次・2年次・3年次 進級判定試験実施期間
3月18日(木)	進級判定
3月(未定)	第3回オープンキャンパス

※定期試験・追再試験は、設定された試験期間または適宜実施されます。



教養教育センターより

教養教育センター長挨拶



教養教育センター長
家 高 洋

本年4月1日付で教養教育センター長を拝命しました哲学教室の家高です。本センターでは理系・文系・語学・体育等、多岐に渡る教育を実施しており、「教養」の多様な在り方を示しています。今

回は私の担当科目「倫理学」における「教養」とその「教育」についてご紹介します。「倫理学」では毎回異なった事例について学生にレポートを書いてもらいます。その内容は「脳死状態の患者さんは生きているのか」「精神的苦痛の患者さんの安楽死を認めるか」等で、どの事例も一つの答えはありません。これらの事例を考える中で、学生は自分自身の価値観を自覚するようになり、時としてレポート作成中に従来の自分の考え方を再考することもあります。このようなレポートの中からいくつかのレポートを選び、次の時間に学生に読んでもらいます。すると自分の考えとまったく違った考えでもそれなりの理由があることや、自分と同じ答えであってもその理由付けが異なることがわかるようになります。自分と異なる考え方にも十分な理由があるということを知り、それを受け入れるような素地が一つの「教養」と考えられます。そして毎回の授業を通じて学生はこの素地を掘り深めていきます。授業を担当する私も学生のレポートから日々学んでいます。

科目紹介

「倫理学」は、医学部1年前期(必修)ならびに薬学部2年前期(薬学科は必修、生命薬科学科は選択必修)で行われています。医学部の「倫理学」で扱われるのは「生命倫理」「医療倫理」「研究倫理」等であり、薬学部の「倫理学」では「生命倫理」「薬剤師の倫理」「研究倫理」等です。「哲学」は、医学部1年後期(選択必修)ならびに薬

学部1年前期(薬学科は必修、生命薬科学科は選択必修)で行われています。医学部も薬学部も「哲学」の前半は哲学史上の様々な思想を学びます。医学部の「哲学」の後半はグループディスカッションを行い、その結果を発表します。薬学部の「哲学」の後半は医療現場における自己決定権の様々な問題を考えます。

図書館より

二松会からの図書寄贈について(御礼)

毎年、二松会から本学図書館に図書購入費の御支援をいただいております。昨年12月以降、次の図書を購入しましたのでご報告いたします。二松会・保護者の皆様へ心より御礼申し上げます。

【令和元年12月～令和2年3月末までの購入分】

「遺伝学辞典」、芥川賞受賞作、直木賞受賞作、本屋大賞受賞作など、計54種 金額177,181円(年間 計92種 金額500,000円)

令和元年度 図書館利用状況・蔵書統計報告

令和2年3月31日現在

	本館	医学分館		年間受入数	蔵書数
開館日数	274日	321日	図 書	2,923冊	122,956冊
利用対象者数	4,162人	4,162人	電子書籍	1,929冊	9,572冊
入館者数	50,144人	22,232人	雑 誌	226種	1,190種
貸出冊数	4,237冊	5,282冊	視 聴 覚	1点	582点
貸出人数	2,380人	2,801人			
相互協力(申込)	83件	139件			
相互協力(受付)	56件	52件			

自宅から図書館の電子資料を活用する(学習支援)

図書館では、学生の皆さんへの学習支援の一環として「自宅からでも利用可能な電子リソース」に関するお知らせをメールにてお送りいたしました。図書館は、新型コロナウイルス感染症への対応のため臨時休館しておりますが、一部の電子リソース(電子

ブックや電子ジャーナル、データベース等)はリモートアクセス機能を活用することで場所を選ばず、どこにいても学術情報を入手することが可能となっております。ID/PWの取り扱いには十分ご注意の上ご活用ください。

令和元年度大学院学位記授与関係

令和元年9月9日(月)、令和2年2月17日(月)に博士学位論文、2月18日(火)に修士学位論文の最終試験(口頭による論文発表)があり、5名に博士(薬科学)、4名に博士(薬学)、11名に修士(薬科学)の学位記が授与されました。

氏名及び論文題名は次のとおりです。

薬科学専攻博士課程前期課程(11名)

番号	氏名	専攻科目	論文題名
1	石井 聖人	臨床医学	肺組織由来 CD34+ Sca-1+ 細胞の分離と気管支喘息に対する細胞治療の基礎的研究
2	佐々木 航輝	生化学	アルギニンおよびロイシンからなる両親媒性ヘリックスペプチドの合成と細胞傷害性評価
3	佐々木 遼	放射薬品学	In-111 標識 A3B 型ラクトソームの効率的合成と脳腫瘍分布メカニズム
4	本田 捷太	生化学	がん細胞に対するナマズ卵レクチンおよびその組換え変異体の効果
5	前田 璃音	薬化学	4'-置換 4'-チオヌクレオシド誘導体の合成と核酸医薬への展開
6	山口 優雅	天然物化学	放射菌が生産する抗真菌活性物質の探索研究
7	吉田 昌太郎	薬品製造学	特異な四環性骨格を有するピサボスクアール A の全合成研究
8	渡辺 孝樹	衛生化学及び公衆衛生学	CYP3A4 誘導における新規転写活性化機構の探索に関する研究
9	渡邊 夢実	衛生化学及び公衆衛生学	CYP 活性に変動を与える健康食品の探索
10	雷 世安	生化学	N-glycosylation of bradykinin B2 receptor regulates G protein-coupled receptor signaling processes
11	洪 琬怡	薬理学	Effect of Diminazene, an ACE2 Activator, on Neuropathic Pain Induced by Chronic Constriction Injury of the Sciatic Nerve in Mice

薬科学専攻博士課程後期課程(3名)

番号	氏名	専攻科目	論文題名
1	段 程偉	生化学	Importance of core fucosylation in FLT3-mediated cellular signaling
2	叡 峰	生化学	Analysis of α 2,3-sialyltransferases (ST3GAL3, ST3GAL4, and ST3GAL6) in cell biological functions
3	楊 暹	生化学	EpCAM regulates cell adhesion and migration in cancer cells

薬学専攻博士課程(4名)

番号	氏名	専攻科目	論文題名
1	小平 貴代	薬理学	海馬 AMPK 活性化による抗うつ作用とそのメカニズム解明に関する研究
2	熊谷 茉歩	薬剤学	潰瘍性大腸炎モデルラットにおける吸収制御因子の変動および体内動態への影響
3	金野 太亮	生薬学	タデ藍 <i>Persicaria tinctoria</i> 含有機能性成分の PPAR 活性化を介したインスリン抵抗性の改善及び TNF- α 誘導炎症モデルにおける抗炎症作用の研究
4	佐藤 匠	微生物学	<i>Staphylococcus aureus</i> の Sulfamethoxazole-trimethoprim 耐性 small colony variants に関する研究

論文博士(博士(薬科学))(2名)

令和元年9月授与

番号	氏名	専攻科目	論文題名
1	高村 絢子	生化学	膝関節腔内注射剤架橋ヒアルロン酸製剤Gel-200 の変形性膝関節症に対する有効性および安全性の解析

令和2年3月授与

番号	氏名	専攻科目	論文題名
2	穴戸 史	生化学	ガングリオシドGM3合成酵素及びGM2合成酵素における細胞内輸送機構の解析

入試センターより

令和2年度入試結果

薬学部の推薦入試(指定校制・公募制)を令和元年11月17日(日)に、一般入試(前期)を令和2年1月25日(土)に、一般入試(後期)を令和2年2月15日(土)に実施しました。

また、医学部一般入試の一次試験を薬学部一般入試(前期)と同日の令和2年1月25日(土)に東京2会場と大阪、本学の他に新たに設けた札幌でも実施し、二次試験(一次試験合格者のみ対象)を令和2年2月8日(土)、9日(日)に本学で実施しました。

令和2年度入試結果は別表(1)(2)のとおりです。

令和2年度 医学部入試結果

表(1)

区分	内容	人数 ※()内は女子の内数					志願倍率	実質競争倍率
		募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数		
令和2年度	一般	100	1642(534)	1582(522)	325(97)	100(21)	16.42倍	4.9倍

令和2年度 薬学部入試結果

表(2)

区分	内容	人数 ※()内は女子の内数					志願倍率	実質競争倍率	区分	内容	人数 ※()内は女子の内数					志願倍率	実質競争倍率	
		募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数					募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数			
薬学 科	推薦(指定校)	50	47(33)	47(33)	47(33)	47(33)	0.9倍	1.5倍	生 命 薬 学 科	推薦(指定校)	10	6(5)	6(5)	6(5)	6(5)	0.6倍	1.0倍	
	推薦(公募)	75	121(75)	120(75)	80(52)	80(52)	1.6倍			推薦(公募)	5	3(1)	3(1)	2(1)	2(1)	0.6倍		
	一般(前期)	120	369(209)	360(208)	280(160)	142(80)	3.1倍			1.3倍	一般(前期)	15	44(22)	43(22)	41(21)	18(8)		2.9倍
	一般(後期)	32	163(81)	86(44)	62(30)	40(19)	5.1倍			1.4倍	一般(後期)	7	19(9)	12(7)	10(7)	3(2)		2.7倍
	センター(前期)	15	220(132)	220(132)	110(63)	8(7)	14.7倍			2.0倍	センター(前期)	3	26(17)	26(17)	21(15)	1(1)		8.7倍
	センター(中期)	5	26(14)	26(14)	16(6)	4(0)	5.2倍			1.6倍	センター(中期)	若干名	6(6)	6(6)	5(5)	1(1)		1.2倍
	センター(後期)	3	19(10)	19(10)	13(4)	0(0)	6.3倍			1.5倍	センター(後期)	若干名	5(3)	5(3)	5(3)	0(0)		1.0倍
	計	300	965(554)	878(516)	608(348)	321(191)					計	40	109(63)	101(61)	90(57)	31(18)		

令和3年度入試概要

令和3年度入試概要は別表(3)(4)のとおりです。令和3年度入試より、試験区分名称を次のように変更いたします。推薦入試は学校推薦型選抜、一般入試は一般選抜、大学入試センター試験利

用入試は大学入学共通テスト利用選抜となります。入試制度の変更は特にありません。

<医学部>

表(3)

一 般 選 抜					
医学科募集人員	100名				
試験日	一次試験			二次試験(一次試験合格者のみ)	
	令和3年1月23日(土)			令和3年2月6日(土)、7日(日)	
実施都市	仙台	東京	大阪	札幌	仙台
合格発表	令和3年1月29日(金)			令和3年2月12日(金)	

<薬学部>

表(4)

	学校推薦型選抜	一 般 選 抜		大学入学共通テスト利用選抜		
	(公募制)	(前期)	(後期)	(前期)	(中期)	(後期)
薬学 科 (6年制)募集人員	75名	120名	32名	15名	5名	3名
生命薬科学科 (4年制)募集人員	5名	15名	7名	3名	若干名	若干名
試験日	令和2年11月21日(土)	令和3年1月23日(土)	令和3年2月13日(土)	【大学入学共通テスト試験日:令和3年1月16日(土)、17日(日)】 本学での個別試験は課さない。		
実施都市	仙 台	仙台、東京、郡山、山形、秋田、盛岡、青森、水戸(前期のみ)、札幌(前期のみ)	仙台、東京、郡山、山形、秋田、盛岡、青森			
合格発表	令和2年12月1日(火)	令和3年1月29日(金)	令和3年2月19日(金)	令和3年2月12日(金)	令和3年2月19日(金)	令和3年3月16日(火)

※指定校制<薬学科50名、生命薬科学科10名>の募集内容等については、該当する高等学校等に直接通知します。
 ※実施都市<仙台>は薬学部・医学部ともに、本学小松島キャンパスとなります。
 ※今後の新型コロナウイルスの感染状況などにより変更が生じた場合は、本学のホームページでお知らせいたします。

キャリア支援センターより

令和元年度就職(進学)状況 (令和2年6月1日現在)

薬学科97.8% 生命薬科学科100% 進路決定

薬剤師国家試験の合格発表を受け、確定した就職(進学)は以下のとおりです。

◎薬学科

日本全薬工業(株)、日本臓器製薬(株)、マルホ(株)、イーピーエス(株)、ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)、青森県職員、岩手県職員、宮城県職員、山形県職員、(独)国立病院機構 北海道東北グループ、地域医療機能推進機構(JCHO) 東日本地区病院、弘前大学医学部附属病院、東北大学病院、東北労災病院、山形大学医学部附属病院、大阪大学医学部附属病院、JA北海道厚生連、つがる西北五広域連合 つがる総合病院、八戸市立市民病院、岩手県医療局、盛岡赤十字病院、石巻赤十字病院、仙台市立病院、みやぎ県南中核病院、秋田赤十字病院、JA秋田厚生連、日本海総合病院、米沢市立病院、公立岩瀬病院、(公大)福島県立医科大学附属病院、JA茨城県厚生連、国家公務員等共済組合連合会東北公済病院、青森保健生活協同組合、(財)鷹揚郷腎研究所弘前病院、(財)黎明郷弘前脳卒中・リハビリテーションセンター、(財)広南会 広南病院、東北医科薬科大学病院、東日本旅客鉄道(株)JR仙台病院、(医)篠田好生会 篠田総合病院、(一財)温知会 会津中央病院、(一財)脳神経疾患研究所附属 総合南東北病院、(一財)竹田健康財団 竹田総合病院、福島医療生活協同組合わたり病院、(医社)協友会 柏厚生総合病院、(医)齋藤記念病院、上尾中央医科グループ、(株)アイセイ薬局、アイングループ、(株)アクア マリーン調剤薬局、(有)アクティ、(有)飯島 イイジマ薬局、(一社)石巻薬剤師会 女川薬局、いまいメディカルグループ、(株)医薬品情報センター、(株)ウィーズ、(有)ウジエ調剤薬局、(株)エヌ・エム・アイ、(株)オオノ、オムニバスグループ、カメイ(株)、クオール(株)、(株)グッドネイバー、(有)久米薬局、クラフト(株)、

(有)ケイエスメディカル、シップヘルスケアファーマシー東日本(株)、しなの薬局グループ、総合メディカル(株)、(有)つるみ薬局、(有)テック、東邦ホールディングス(株)、徳永薬局(株)、(株)トミザワ薬局、(株)トラストファーマシー、日本調剤(株)、(有)ノア けやき薬局、延岡医薬分業支援センター、阪神調剤ホールディング(株)、(株)Human、(株)ファーマケーション、ファーマライズホールディングス(株)、(一社)ファルマネット山形、(株)フォルマン、(株)富士薬品、(有)フレンド薬局、(株)町田アンド町田商会、Mik(株)、(株)ミッテル、(有)みはる調剤薬局、(一社)みやぎ保健企画 つばさ薬局、(株)メディカコラボ、(株)メディカルコスモリフレ薬局、(株)メディカルシステムネットワーク、(株)メディカル長栄、(株)ヤマザワ薬品、(株)ワークイン つくし薬局、ウエルシア薬局(株)、(株)くすりの福太郎、(株)クリエイトエス・ディー、(株)ココカラファインヘルスケア、サンドラッググループ、(株)スギ薬局、(株)ツルハ、(株)マツモトキヨシ、東北大学大学院薬学研究科医療薬学専攻、名古屋市立大学大学院薬学研究科医療機能薬学専攻

◎生命薬科学科

マルホ(株)、イーピーエス(株)、(株)EP総合、サイトサポート・インスティテュート(株)、(株)ビーアイメディカル、東北アルフレッサ(株)、(一社)日本食品検査、(株)アウトソーシングテクノロジー、千葉大学大学院医学薬学府総合薬品科学専攻、東北医科薬科大学大学院薬学研究科薬科学専攻、東北大学大学院理学研究科化学専攻

◎大学院薬学研究科

グラクソ・スミスクライン(株)、十全化学(株)、ダイト(株)、ニプロファーマ(株)、藤本製薬(株)、(株)インテリム、サイトサポート・インスティテュート(株)、岩谷瓦斯(株)、(株)千代田テクノ、秋田大学医学部附属病院、(学)東北医科薬科大学 薬学部、南通大学

合同就職説明会に代わり、資料コーナーを設置

新型コロナウイルスの影響で合同就職説明会を中止したところですが、学生にとってこのイベントは就職先を検討する上で大きなきっかけとなっております。キャリア支援センター・就職課では合説参加予定企業のプロフィール集については予定どおり印刷し、対象学生に直接配付もしくは希望する学生に対し郵送いたしました。また、中央棟エントランスホールに特設の資料コーナーを設け、事業所の資料(パンフレット、説明会・見学会案内等)を配架し可能な限り情報提供に努めました。その後は県からの休業要請を受け、学生の構内立ち入りが原則禁止となり、対面による進路相談・添削指導等ができなくなりましたが、就職課ではメールや電話による進路相談や履歴書等の添削受付、履歴書用紙の郵送受付、閲覧希望資料や事業所資料の送付受付、その他、病院等求人情報の提供をいたしました。また、Webによる模擬面接も実施しています。新型コロナウイルスの影響で就職活動がいろいろと制限さ

れている中で、学生は各自活動を続け、薬学科については4月末の時点で6割弱の学生が内々定を得ています。

キャリア支援センター運営委員会では、今後も学生の就職活動や企業の採用活動の動向をみながら、可能な限り各種就職支援を行ってまいります。



キャリア支援センターより

令和2年度 薬学部キャリア・就職支援行事予定

5月

薬学科5・6年生就職ガイダンス(動画配信)
生命薬科学科3年生就職ガイダンス(動画配信)

6月

薬学科4年生キャリアガイダンス(動画配信)
生命薬科学科2年生キャリアガイダンス(動画配信)

7月

業界説明会[製薬会社(MR)、CRO・SMO、医薬品卸](動画配信)
業界説明会
[製薬会社(品質管理)、化粧品(技術職)、検査(技術職)](動画配信)
業界説明会(公務員)(資料配信)
病院薬剤師に関する説明会(動画配信)
生命薬科学科キャリア支援講座II(Zoomによるオンライン講座)
業界説明会(調剤薬局・ドラッグストア)(動画配信)

8月

インターンシップ事前講習会(Zoomによるオンライン講座)
夏季インターンシップ
(生命薬科学科3年生対象の選択必修科目はZoomを利用)

9月

生命薬科学科キャリア支援講座(全15回・後期授業として開講)
自己分析・履歴書・エントリーシート書き方講座
就職マナー講座I
就職マナー講座II(着こなし講座・就活メイク講座)

10月

履歴書・エントリーシートフォローアップ講座
学内公務員講座開講(～2021.7終了予定):有料
就職活動体験発表会
面接試験対策講習会①
生命薬科学科3年生適性検査R-CAP web受験(10/26～11/6)

11月

製薬会社等内定者との懇談会
業界・仕事研究セミナー
面接試験対策講習会②
インターンシップ事後講習会
SPI3解説講座
就活メイク体験セミナー:有料
R-CAP解説講義

12月

生命薬科学科3年生進路調査書web登録

1月

生命薬科学科3年生進路面談
生命薬科学科3年生就職ガイダンス～就活直前編～

2月

薬学科4年生就職ガイダンス、インターンシップ説明会
薬学科5年生就職ガイダンス～就活直前編～
就職活動直前講座(自己分析・ES・面接)
薬学科5年生進路調査書web登録

3月

合同就職説明会(2日間)



高柳元明 理事長・学長 再任

高柳元明学長の任期が令和2年4月19日で満了となることに先立ち、学長選考会議が開催され、次期候補者に引き続き高柳元明氏が推薦されました。これを受けて、薬学部・医学部両教授会の意見を聴取した後、法人理事会（令和2年3月20日開催）で学長再任が承認されました。

また、高柳元明氏の理事及び理事長の任期についても令和2年

4月19日で満了となることに伴い、同理事会において、本法人寄附行為に基づいて学長理事に再任となり、併せて理事長重任が承認されました。

なお、理事長・学長の任期は、令和2年4月20日から令和5年4月19日までの3年間です。

本法人の中長期計画策定について

令和2年2月25日開催の第470回理事会において、中長期計画「学校法人東北医科薬科大学 中長期計画 VISION FOR 2030—地域に根ざした医療系総合大学としてのさらなる発展を目指して—」が承認されました。当計画は、本法人の将来を見据えた経営計画策定の必要性及び私立学校法改正による中期的な計画策定義務化への対応のため、平成31年4月に設置された中長期計画策定委員会における計6回の協議を経て策定されたものです。

計画には、建学の精神（ミッション）を踏まえて設定された10年後（令和12年4月）に到達すべき姿（ビジョン）の実現に向け、6つの事業領域「教育」「研究」「学生支援」「入学者選抜」「病院運営」

「経営管理」において基本目標・行動目標・行動計画が示されました。そして、それらに沿って各担当部門が具体的施策を実施することで、ビジョンの達成を目指してまいります。

また、前半5年（2020年～2024年）を第1期、後半5年（2025年～2029年）を第2期と位置付けました。外部環境の変化が一層進展することが予測されることから、第1期終了時、必要に応じて第2期を達成年度とする行動計画の見直しを行う予定となっております。

詳細は、本学ホームページ（<http://www.tohoku-mpu.ac.jp/about/information/>）に掲載しておりますので、ご覧ください。

令和2年度事業計画

令和2年3月20日開催の第471回理事会において、令和2年度事業計画が承認されました。当年度より、事業計画は本法人の中長期計画を具体的に推進するための年度計画と位置付けられたため、体裁・構成が大幅に変更となっております。

なお、計画における各事業領域の重要施策の概要は、以下のとおりです。

1. 教育領域

教学IR委員会が中心となって、教学活動に関する情報・データの収集・解析を行うとともに、そのフィードバック活動を積極的に行います。

2. 研究領域

医学部・薬学部・附属病院の連携強化の一環として、附属病院の資源活用を図り、学内の教育研究におけるデータの共同利用やリパーストランスレーショナルリサーチ等を推進します。

3. 学生支援領域

各種調査を積極的に実施するとともに、教学IR委員会と連携して調査結果を解析し、学生支援施策としてフィードバックを行います。

4. 入学者選抜領域

在学生の出身校派遣プログラムや薬学部独自のオープンキャ

ンパス等の新たな広報活動の実施により、志願者数の増加を目指します。

5. 病院運営領域

令和2年8月末の名取守病院の閉院に伴う、9月からの福室本院・若林病院の2病院体制に向けて、附属病院間の効率的な機能分化と連携体制の構築を図ります。また、現状分析に基づいた、収益向上のための施策を実行することにより、附属病院の収支改善を図ります。

6. 経営管理領域

経常費補助金・寄付金の増額および経費削減の具体策実施や設備投資の適切管理等により、経常収支差額の早期の安定化を目指します。

上記に加え、令和2年度に重点的に取り組む事業として、日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価の受審および大学院医学研究科（仮称）の令和4年4月開設に向けた準備について、確実な対応を行ってまいります。

計画は、本学ホームページ（<http://www.tohoku-mpu.ac.jp/about/information/>）に掲載しておりますので、ご覧ください。

令和元年度事業報告

令和2年5月23日開催の第472回理事会において、令和元年度事業報告が承認されました。本法人の教育・研究・附属病院の運営等の事業や財務の概要について、令和元年度の概略を記載しております。

報告は、本学ホームページ(<http://www.tohoku-mpu.ac.jp/about/information/>)に掲載しておりますので、ご覧ください。

令和元年度決算

令和元年度決算は、法人監事の監査を経て理事会で承認された後、評議員会へ報告されました。また、監査法人による監査も適正意見を得ております。決算の概要は下記のとおりです。

令和元年度は、事業活動収入266.3億円(前年度比18.7億円増)から事業活動支出304.3億円(前年度比34.7億円増)を差し引いた基本金組入前当年度収支差額は△38.0億円(前年度比16.0億円減)となりました。また、基本金組入前当年度収支差額△38.0億円から基本金組入額45.5億円を控除した当年度収支

差額は△83.5億円となりました。

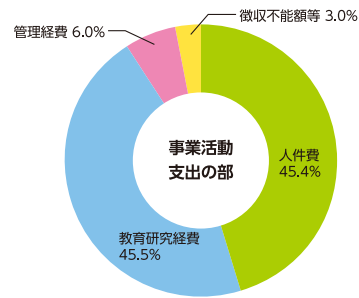
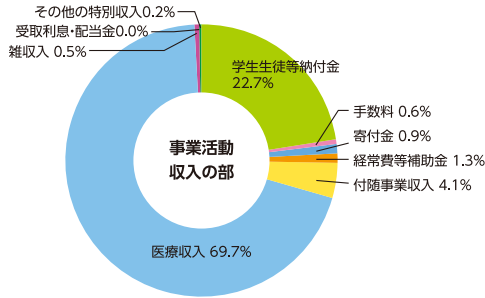
決算の詳細につきましては、本学のホームページに掲載を行っておりますので、ご参照下さい。

令和2年度は、大学・附属病院の収益増強と経費削減の具体策実施による収支改善に主眼を置き、適切な財務管理に取り組んでまいりますので、関係各位のご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

令和元年度 事業活動収支決算(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

(単位:百万円)

区分	事業活動収入の部				事業活動支出の部				
	科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異	
教育活動収支	学生生徒等納付金	6,049	6,049	0	人件費	13,714	13,804	△ 90	
	手数料	149	149	△ 0	教育研究経費	13,865	13,836	29	
	寄付金	230	227	3	(うち、医療経費)	(6,231)	(6,195)	(37)	
	経常費等補助金	363	353	9	管理経費	1,787	1,839	△ 52	
	付随事業収入	1,079	1,096	△ 17	徴収不能額等	907	914	△ 7	
	医療収入	18,426	18,568	△ 142	徴収免除額	0	0	0	
	雑収入	132	133	△ 2					
	計	26,428	26,577	△ 149	計	30,272	30,392	△ 120	
教育活動収支差額						△ 3,845	△ 3,815	△ 29	
教育活動外収支	受取利息・配当金	4	4	△ 0	借入金等利息	19	20	△ 0	
	計	4	4	△ 0	計	19	20	△ 0	
教育活動外収支差額						△ 15	△ 15	0	
経常収支差額						△ 3,860	△ 3,831	△ 29	
特別収支	資産売却差額	1	1	0	資産処分差額	0	20	△ 20	
	その他の特別収入 (うち、教育研究協力資金)	3 (3)	53 (3)	△ 51 (0)	その他の特別支出	0	0	0	
	計	3	54	△ 51	計	0	20	△ 20	
特別収支差額						3	34	△ 30	
事業活動収入計		26,435	26,635	△ 200	事業活動収入計		30,291	30,432	△ 141
予備費						140		140	
基本金組入前当年度収支差額						△ 3,996	△ 3,797	△ 199	
基本金組入額						△ 4,673	△ 4,551	△ 122	
当年度収支差額						△ 8,669	△ 8,348	△ 321	



学校法人東北医科薬科大学 ガバナンス・コードの制定について

令和2年2月25日開催の第470回理事会において、「学校法人東北医科薬科大学 ガバナンス・コード」が承認されました。これは、本法人が加盟する日本私立大学協会による制定の指針に沿って、学校法人としての自律的なガバナンスを改善・強化するための

方途及び運営上の基本を制定したものです。

詳細は、本学ホームページ(<http://www.tohoku-mpu.ac.jp/about/information/>)に掲載しておりますので、ご覧ください。

令和元年度外部資金獲得状況

(1) 科学研究費助成事業

(単位：円)

	薬学部			分担者
	新規	継続	合計	
件数	12	22	34	
直接経費	20,200,000	24,200,000	44,400,000	
間接経費	5,790,000	7,260,000	13,050,000	
合計	25,990,000	31,460,000	57,450,000	

	教養教育C			分担者
	新規	継続	合計	
件数	0	2	2	
直接経費	—	1,000,000	1,000,000	
間接経費	—	300,000	300,000	
合計	—	1,300,000	1,300,000	

	医学部			分担者
	新規	継続	合計	
件数	24	38	62	
直接経費	43,200,000	53,900,000	97,100,000	
間接経費	12,960,000	16,170,000	29,130,000	
合計	56,160,000	70,070,000	126,230,000	

	合計			分担者
	新規	継続	合計	
件数	36	62	98	43
直接経費	63,400,000	79,100,000	142,500,000	14,090,000
間接経費	18,750,000	23,730,000	42,480,000	3,042,000
合計	82,150,000	102,830,000	184,980,000	17,132,000

(2) 受託研究費等

(単位：円)

	薬学部			
	受託研究	共同研究	奨学寄附	合計
件数	1	10	9	20
直接経費	750,000	18,548,660	2,646,000	21,944,660
間接経費	225,000	1,859,856	294,000	2,378,856
合計	975,000	20,408,516	2,940,000	24,323,516

	教養教育C			
	受託研究	共同研究	奨学寄附	合計
件数	0	0	1	1
直接経費	—	—	1,350,000	1,350,000
間接経費	—	—	150,000	150,000
合計	—	—	1,500,000	1,500,000

	医学部			
	受託研究	共同研究	奨学寄附	合計
件数	14	3	187	204
直接経費	97,550,178	2,281,091	108,686,317	208,517,586
間接経費	28,419,171	238,909	11,742,924	40,401,004
合計	125,969,349	2,520,000	120,429,241	248,918,590

	合計			
	受託研究	共同研究	奨学寄附	合計
件数	15	13	197	225
直接経費	98,300,178	20,829,751	112,682,317	231,812,246
間接経費	28,644,171	2,098,765	12,186,924	42,929,860
合計	126,944,349	22,928,516	124,869,241	274,742,106

(3) 教育研究協力資金

(単位：円)

区分	新規	金額
個人	419	18,455,000
企業・団体	9	35,300,000
合計	428	53,755,000

学内人事

【薬学部】

【新採用】

<令和2年4月1日付>

環境衛生学	教授	黄	基	旭
臨床分析化学	准教授	佐	藤	彦
病院薬剤学	助教	大	内	介
臨床薬剤学	助教	金	野	太
臨床感染症学	助教	佐	藤	匠

【昇格】

<令和2年4月1日付>

薬剤学	准教授→教授	我	妻	恭	行
薬理学	講師→准教授	八百板	富	紀	枝
分子薬化学	助教→講師	名	取	良	浩
分子認識学	助教→講師	立	田	岳	生
臨床薬剤学	助教→講師	鈴木	裕	之	人
臨床感染症学	助手→助教	河	村	真	人

【兼任】

<令和2年4月1日付>

東北医科薬科大学病院薬剤部

鈴木 裕 之
(臨床薬剤学・講師)
大内 竜 介
(病院薬剤学・助教)
金野 太 亮
(臨床薬剤学・助教)
西川 陽 介
(臨床薬剤学実習センター・助手)

東北医科薬科大学病院薬剤部

東北医科薬科大学病院薬剤部

東北医科薬科大学病院薬剤部

【退職】

<令和2年3月31日付>

環境衛生学	教授	永	田	清
薬剤学	特任教授	鈴木	常	義
臨床分析化学	准教授	大	野	賢

【医学部】

【新採用】

<令和2年2月1日付>

病理学 助教 島 田 洋 樹

<令和2年4月1日付>

内科学第二(糖尿病代謝内科)	准教授	澤	田	正	二	郎
整形外科	准教授	菅	野	晴	夫	一
脳神経外科学	准教授	藤	健	一	郎	
感染症学	准教授	遠	藤	史	郎	
産婦人科学	講師	松	澤	由	記	子
産婦人科学	助教	村	岡	由	真	英
皮膚科学	助教	横	山	華	英	子
外科学第一(肝胆膵外科)	助手	近	藤	典	智	也
外科学第一(消化器外科)	助手	三	浦	智	也	美
心臓血管外科学	助手	武	田	美	貴	悠
感染症学	助手	今	井	千	佳	彩
地域医療学	助手	大	安	達	彩	
眼科学	助手	宮	澤	恵	美	子
内科学第三(腎臓内分泌内科)	助手	佐	々	木	雅	史
医学教育推進センター	助手	小	林	靖	卓	み
内科学第二(糖尿病代謝内科)	助手	小	福	與	な	お
小児科学	医師	福	與	な	お	み

【昇格(職名変更)】

<令和2年2月1日付>

脳神経外科学 助手→助教 針 生 新 也

<令和2年4月1日付>

心臓血管外科学	講師→准教授	清	水	拓	也
皮膚科学	医師→准教授	高	橋	一	夫
外科学第二(呼吸器外科)	講師→准教授	菅	原	崇	史
内科学第三(腎臓内分泌内科)	助手→助教	関	安	勝	洋
腫瘍内科学	助手→助教	安	田	勝	洋
外科学第一(消化器外科)	助手→助教	三	田	村	篤

<令和2年7月1日付>

小児科学 医師→准教授 福 與 なおみ

【所属変更】

<令和2年4月1日付>

解剖学→組織解剖学(新設)	教授	石	田	雄	介
解剖学→組織解剖学(新設)	助教	直	野	留	美

<令和2年7月1日付>

輸血部→臨床検査医学	講師	冲	津	庸	子
------------	----	---	---	---	---

【兼任】

<令和2年4月1日付>

血液浄化部	助手	宮	澤	恵	美	子
-------	----	---	---	---	---	---

(内科学第三(腎臓内分泌内科)・助手)

<令和2年5月1日付>

麻酔科学	教授	福	田	寛
------	----	---	---	---

(医学部長)

【兼任解除】

<令和2年6月30日付>

輸血部	教授	高	橋	伸	一	郎
臨床検査医学	講師	冲	津	庸	子	

(輸血部・講師)

【退職】

<令和2年3月31日付>

脳神経外科学	准教授	林	俊	哲
内科学第三(腎臓内分泌内科)	講師	衣	笠	哲
リハビリテーション学	講師	三	浦	裕
皮膚科学	講師	宮	部	千
整形外科	講師	松	谷	重
内科学第二(消化器内科)	助教	松	二	瓶
内科学第一(呼吸器内科)	助教	阿	部	武
眼科学教室	助教	阿	千	葉
麻酔科学	助教	河	野	達
外科学第一(消化器外科)	助教	佐	瀬	友

【教養教育センター】

【新採用】

<令和2年4月1日付>

法学 講師 加 藤 雄 大

<令和2年4月1日付>

哲学 准教授→教授 家 高 洋

独乙語学 助教→講師 木 戸 紗 織

<令和2年3月31日付>

法学 講師 佐 俣 紀 仁

【事務局】

【昇格】

<令和2年4月1日付>

企画部企画課長→学務部長 畑 中 亨

学務部教務課課長補佐→学務部教務課長 今 野 英 幸

<令和2年4月1日付>

企画部企画課長→学務部長 畑 中 亨

学務部教務課長→企画部企画課長 浅 野 一

【兼任】

<令和2年4月1日付>

財務部長 堀 田 徹 (事務局長)

学務部庶務課長 畑 中 亨 (学務部長)

学務部図書館事務課長 畑 中 亨 (学務部長)

<令和2年3月31日付>

学務部長 高 橋 正 吉

財務部長 高 柳 望

新型コロナウイルス感染症への附属病院の対応について

世界的に流行している新型コロナウイルス感染症に対する対応では、東北医科薬科大学病院(以下、「本院」)、同若林病院(以下、「若林病院」)および同名取守病院(以下、「名取守病院」)もその一翼を担っています。

本院では、感染者や感染が疑われる患者の受入れに備えてプレハブの隔離診察室を設置した他、ICUの陰圧個室(室内の空気が外部に流出しないよう気圧を低くしてある個室)の増設、感染者専用病棟の確保などの対応を行いました。一方で、通常の診療を安全に継続するため、正面玄関での来院者の健康チェックや面会禁止などの流入抑止策、防護衣・フェイスシールドの着用やこまめな消毒などの感染防護策を実施しています。

また、本学の賀来満夫特任教授が監修した「新型コロナウイルス感染症市民向け感染予防ハンドブック」の発行やマスクミでの情報発信など、一般の方に向けた啓発活動も行っています。

若林病院および名取守病院でも、来院者の出入口を限定したり、本院と同様来院者全員の検温を行うとともに風邪症状の有無などを問診し、症状のある方は隔離して別室で詳しい問診や診察等を行っています。その他飛沫感染防止策として、窓口等に透明シートを設置するとともに、定期的に清拭を励行するなど接触感染リスクの軽減に努めています。

このような対応を行う中で、各病院ともマスク・防護具等の資材不足が大きな問題でしたが、患者様をはじめ多くの皆様からご提供いただき、診療を継続しております。皆様のご厚情に深く感謝するとともに今後も附属3病院一丸となって、新型コロナウイルス感染症に対応してまいります。



本院:正面玄関での健康チェック



若林病院:寄贈いただいたマスク等

病院内リニューアルについて

《本院》 -「入院支援センター」の拡張など-

「入院支援センター」を拡張し、従前は別々の場所で行っていた入院時の受付・説明、持参薬の確認や入院セットのレンタルなど、一連の入院手続きをワンストップで行うことができるようになりました。

また、受付カウンターから文書受付窓口(診断書・証明書等発行)を切り離し、別に個室を用意して、対応しております。これにより、受付窓口や中央待合の混雑を緩和するとともに、文書発行を希望される患者様のプライバシー保護の強化を図っております。

《若林病院》 -「人工透析センター」の拡充-

2020年2月に血液透析を行う「人工透析センター」を26床から31床に増床しました。仙台市内は、血液透析が必要な患者様を新たに受入できる施設(透析導入可能施設)が少ないこともあり、その一端を担う若林病院の導入患者数は、年間30人を超えます。増床前の受入患者数は約90名で、二部制(一床当たり一日二名の患者様に対応)を前提としても、ほぼ満床状態であったことから、増床に至ったものです。

今回の改修では既存の透析室の他、第2透析室を新たに設けましたが、ベッド上で長時間を過ごす患者様に配慮し、ゆったりとした空間を確保しました。

今後も、両院ともに患者様の満足度を向上させるため院内の整備に取り組んでまいります。



人工透析センター 第2透析室(若林病院)

永年勤続者表彰について

例年、創立記念日に行っている永年勤続表彰式は新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮し中止いたしました。

対象者56名には、表彰状・記念品に加えて、高柳理事長からの感謝を綴った挨拶状が贈呈されました。

【表彰者の内訳】

大学：19名 本院：28名 若林病院：9名



研究誌第66号発刊

東北医科薬科大学研究誌第66号が2020年4月上旬に発刊されました。本誌には総説4編、原著4編、症例報告2編の論文が掲載されています。症例報告は大学院薬学研究科薬学専攻の1年生が本学病院で実施した臨床薬学研修Iで実際に関わった症例について文献的考察を加え、まとめたものです。その他、記録として博士学位論文9編の要旨(2019年3月取得分)、薬学部教員が2019年1月から12月までに本誌以外の学術雑誌に発表した論文99編の要旨、学会発表312回分の表題及び薬学部・医学部教員が2019年度に採択された科学研究費補助金等の競争的研究資金採択一覧が掲載されています。

発刊にご協力くださいました方々に感謝申し上げます。



教養教育関係論集第33号発刊

「東北医科薬科大学 教養教育関係論集第33号」が令和2年3月に完成しました。本号は、菅原美佳講師による研究ノート「形態素に重点を置いた医学・薬学英语教育の実践報告」をはじめ、山下剛教授による研究ノート「ベッティーナ・フォン・アルニムの結婚生活」を掲載しています。また、東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会に参加した、佐々木克之教授、内山教授、遠藤壮助教による報告も掲載されています。

昭和63年3月に「一般教育関係論集第1号」を発刊して以来、30年以上継続してこられましたのも、高柳元明理事長・学長をはじめ、皆様のご支援の賜物と感謝申し上げます。



教室紹介

薬学部 医薬情報科学教室(教室責任者:渡部 輝明教授)

当教室では、薬学部の情報科学(IとII、III)、医学部の情報科学(及び実習)を担当しています。高学年で必要となる情報処理技術を演習し、学生が十分に習得できる体制を整えています。卒業研究や大学院においては、当教室の研究テーマから厳選した研究を行っています。例えば人工知能による薬剤副作用情報からの未発現副作用発現予測や、数理科学的モデルを用いた薬剤耐性菌出現予測や、ウイルス感染症疫学の解析を行っています。一方、今

年4月以降は薬学部新型コロナウイルス感染症対策会議の要請を受けて遠隔授業準備のため、情報システム課と協力して、動画配信サーバーやMoodleサーバーの設置及び設定を行い、遠隔授業の遅滞ない開始に貢献しました。更には感染症対策会議と協力して遠隔授業の環境の整わない学生による情報科学センター利用に際しての感染拡大防止策を徹底しました。当教室の活動に関して、お気軽にお問い合わせください。



左から 青木助教、渡部教授、川上准教授、星講師

医学部 放射線基礎医学教室(教室責任者:栗政 明弘教授)

放射線基礎医学教室は3名の教員で、教育研究活動を行っています。医学部教育では、1年次後期の放射線基礎医学、放射線基礎医学体験学習、3年次後期の被ばく医療演習を担当しています。放射線基礎医学は、臨床の放射線医学への橋渡しとして放射線の基礎知識を修得します。また東日本大震災での福島県の原子力災害を踏まえて、災害時の放射線リスクコミュニケーションができる医師の養成を目指しています。放射線基礎医学体験学

習では、原子力災害の被災地を1泊2日で訪問し、自治体・医療機関関係者および被災住民から現在に至る経過を直接伺い、原子力災害に関する見識を高めます。被ばく医療演習では、被ばく事故が起こった時の緊急対応の演習も行い、汚染対応のための防護衣脱着訓練は昨今のコロナ感染症対策にも役立つものです。研究活動では、放射線の細胞応答やがん放射線治療に際して問題となる放射線抵抗性細胞に関する基礎研究を進めています。



放射線基礎医学体験学習での栗政教授

同窓会より

叙勲

心からお祝い申し上げます。

◆春の叙勲

【瑞宝双光章】

柴野 剛 様 元国立療養所札幌南病院薬剤科長
昭和39年卒業(大学12回生)(北海道)

第6回ホームカミングデイ開催中止のお知らせ

同窓会では、本年度も「第6回ホームカミングデイ」を大学祭に合わせて開催を予定しておりましたが、全国的な新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み中止させていただくことといたします。

本イベントへのご参加を予定されていた皆様ならびにご関係者の皆様には心よりお詫び申し上げます。

何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

二松会より

二松会とは、在学生の保護者によって組織され、大学および社会との緊密な連携を保ち、学生の教育に協力し、学生生活に適した事業を行うことにより教育の進展に寄与し、その効果を上げることを目的としている組織です。

【二松会総会開催案内】

日時:令和2年10月3日(土) 11:00~12:00

場所:東北医科薬科大学(小松島キャンパス)＜福室キャンパスへ中継いたします＞

※新型コロナウイルス感染症の影響により変更となる場合がございますので、あらかじめご承知をお願いします。

令和2年度在学生保護者教育懇談会開催のご案内

本年度の在学生保護者教育懇談会(仙台開催)を、薬学部は小松島キャンパス、医学部は福室キャンパスにて、10月3日(土)に行います。また、仙台以外の地区で行う懇談会を、薬学部では10月24日(土)に青森市と秋田市で、医学部では10月17日(土)に東京で行います。開催の案内は8月上旬に送付予定ですので、ぜひ、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

※新型コロナウイルス感染症の影響により変更となる場合がございますので、あらかじめご承知をお願いします。

【薬学部 在学生保護者教育懇談会】

<仙台開催>

日程:10月3日(土) 13:30~

会場:東北医科薬科大学 小松島キャンパス
講義棟7階 70周年記念講堂

※同日11:00より二松会総会が開催されます。

<他県開催>

日程:10月24日(土)

9:30~薬学科(1~3年生)、生命薬科学科(1~2年生)

13:30~薬学科(4~6年生)、生命薬科学科(3~4年生)

会場:青森市(ホテル青森)

秋田市(秋田ビューホテル)

【医学部 在学生保護者教育懇談会】

<仙台開催>

日程:10月3日(土) 13:30~

会場:東北医科薬科大学 福室キャンパス
教育研究棟3階 プラタナスホール

※医学部1・2年生(小松島キャンパス在籍)の保護者の方の会場も福室キャンパスとなります。

※同日11:00より小松島キャンパスにて開催される二松会総会を中継いたします。

<他県開催>

日程:10月17日(土) 13:30~

会場:東京(フクラシア東京ステーション)

ご寄付のお願い(教育研究協力資金)

本学では教育・研究のための環境整備などを目的として、継続的に皆様からのご支援を受け付けております。引き続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

<寄付申し込み方法(個人でのお申込み)>

- ・インターネット:クレジットカード決済、コンビニ決済、Pay-easy決済よりお選びいただけます。QRコードまたは以下URLより手続きください。
(教育研究協力資金URL:<http://www.tohoku-mpu.ac.jp/donation/>)
- ・銀行振込:振込用紙を送付いたしますので以下の問い合わせ先までご連絡ください。

<お問い合わせ先>

財務部財務課 TEL:022-234-4181(代表) E-mail:kifukin@tohoku-mpu.ac.jp



東北医科薬科大学 広報委員会

〒981-8558 仙台市青葉区小松島4丁目4の1
電話番号 022(234)4181 FAX 022(275)2013
URL <http://www.tohoku-mpu.ac.jp/>

本学公式SNSへのご登録はこちら

東北医科薬科大学
Facebook



ご登録は
こちらから



東北医科薬科大学
Twitter



ご登録は
こちらから

